

## 5 日本語日本文学専攻専門科目



授業科目	日本文学概論		担当者	木戸裕子・竹本寛秋				
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	前期	[単位]	2単位	[必修/選択]	必修	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 高校から大学の教育カリキュラムにスムーズに新入生が移行できるためのリテラシー教育、ならびに各専門分野への橋渡しとなるような基礎的能力の育成を目的とする。</p> <p>【概要】 大学での文学研究は高校の国語の授業の内容とは大きく違います。この授業では、1. 古典文学研究に必要な文献学、書誌学の初歩とくずし字の読み方、2. 主に近代文学研究に必要な文学理論の初歩、3. 大学生にふさわしい「書く力」「話す力」を身につけるためのレポート作成方法の三部構成で、日本文学を学ぶ学生に必要な知識と能力を習得できるようにします。</p> <p>【到達目標】 本の古典・近代文学に関する基礎的な知識を修得し、変体仮名(くずし字)の基本的な読み方を身につける。演習や2年次の卒業研究に必要なディスカッションの仕方、論理的なレポートの書き方を身につける。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 小島孝之『古筆切で読む くずし字練習帳』『字典かな』新典社(担当者:木戸)</p> <p>(2) プリント(担当者:竹本)</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション:本学での日本文学関連の授業と高校の国語の授業の違い、ノートの取り方。</p> <p>第2回 古典文学を学ぶとは、仮名史について:くずし字の読み方1</p> <p>第3回 文献学(写本と板本),書誌学について:くずし字の読み方2</p> <p>第4回 古典の季節観と暦:くずし字の読み方3</p> <p>第5回 古典文学研究の方法1:くずし字小テスト</p> <p>第6回 古典文学研究の方法2:くずし字の読み方4</p> <p>第7回 古典における比較文学 中国古典文学との関わり:くずし字の読み方5</p> <p>第8回 総括1:前半のまとめ</p> <p>第9回 近代文学を学ぶとは:文学理論について</p> <p>第10回 「読む」ときに行われていること:解釈モデルについて</p> <p>第11回 「作者」とは何か:作者/作品/テキストについて</p> <p>第12回 「語り」とは何か:ナラトロジーについて</p> <p>第13回 「物語」とは何か:物語の構造について</p> <p>第14回 論文の書き方</p> <p>第15回 総括2:後半のまとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	授業で指示する課題など。							
成績評価の方法	授業で指示する課題など。							
実務経験について	なし							

授業科目	言語学概論		担当者	楊虹				
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	前期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 言語学に関する基礎知識を学ぶ。</p> <p>【概要】 この授業では、言語学に関する基礎知識を学ぶ。音声学・音韻論、形態論、意味論および語用論、さらに言語獲得のメカニズムや言語によるコミュニケーションの仕組みから「ことば」を多角的に捉えていく。身近な例をあげてこれらの問題について考えながら授業を進める。</p> <p>【到達目標】 言語学の全体像を体系的に把握すると同時に、身近なことばと私たちの生活、社会の関連について理解を深める。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション:言語学とはどんな学問か、授業の概要説明</p> <p>第2回 音声学・音韻論(1):調音音声学,子音・母音</p> <p>第3回 音声学・音韻論(2):モーラ,音節①</p> <p>第4回 音声学・音韻論(3):モーラ,音節②</p> <p>第5回 音声学・音韻論(4):連濁,枝分かれ制約</p> <p>第6回 形態論(1):形態素,派生,複合など単語を生み出す仕組み</p> <p>第7回 形態論(2):新語,流行語</p> <p>第8回 意味論(1):単語の意味</p> <p>第9回 意味論(2):類義語と対義語</p> <p>第10回 語用論(1):発話行為論①</p> <p>第11回 語用論(2):発話行為論②</p> <p>第12回 語用論(3):発話機能と語学教育</p> <p>第13回 言語コミュニケーションと社会:対人関係と地域差</p> <p>第14回 これまでの復習</p> <p>第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜小テストを実施するので、毎回復習が必要である。							
成績評価の方法	授業での発言や参加度及び宿題:50%,期末試験:50%							
実務経験について	なし							

授業科目	日本語学概論		担当者	小亀 拓也
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	前期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	必修
			[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本語を研究する際や日本文学（特に古典文学）を講読する際に必要となる日本語学の基礎知識を学ぶ。</p> <p>【概要】 日本語の各研究分野（音声・音韻、文字・表記、語彙・意味）について概観する。</p> <p>【到達目標】 日本語学の基本的な考え方を身につけ、身の回りの言語現象について、的確に表現できるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 沖森卓也ほか『図解日本語』三省堂</p> <p>(2) 授業中に紹介します。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：「日本語」か「国語」か。「日本語学」とは。</p> <p>第2回 現代日本語の音声と音韻1：音声器官、音声記号</p> <p>第3回 現代日本語の音声と音韻2：日本語の母音、母音の無声化、促音化</p> <p>第4回 現代日本語の音声と音韻3：日本語の子音、調音点・調音法・声帯振動</p> <p>第5回 現代日本語の音声と音韻4：音声と音韻、音素と異音</p> <p>第6回 現代日本語の音声と音韻5：相補分布、条件異音と自由異音、特殊音素</p> <p>第7回 現代日本語の音声と音韻6：拍（モーラ）と音節（シラブル）</p> <p>第8回 現代日本語の音声と音韻7：アクセント、イントネーション、プロミネンス</p> <p>第9回 現代日本語の文字・表記1：日本語の表記の特色</p> <p>第10回 現代日本語の文字・表記2：漢字表、字音と字訓、漢字の成り立ち</p> <p>第11回 現代日本語の文字・表記3：平仮名、片仮名、ローマ字</p> <p>第12回 現代日本語の語彙1：語と語彙、語構成</p> <p>第13回 現代日本語の語彙2：語種（和語、漢語、外来語、混種語）</p> <p>第14回 現代日本語の文法3：語彙と語彙量（語彙の系統性、理解語彙と使用語彙）</p> <p>第15回 復習とまとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	各自事前にテキストを読んでくること。また、毎授業冒頭に復習小テストを行うため、復習が必要である。			
成績評価の方法	筆記試験（テキスト・ノート等持ち込み可）の成績（60%）、小テストの成績（40%）			
実務経験について				

(注) 日本語日文学専攻では、1年次 必修科目かつ教職必修。英語日文学専攻では、2年次 選択科目。  
なお、教育職員免許法施行規則の「音声言語及び文章表現に関するもの」のうち、「音声言語」にあたる内容を扱う。

授業科目	日本語教育概論		担当者	楊 虹
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	後期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本語教育学の基礎を学ぶ</p> <p>【概要】 この授業では、日本語教育に初めて接する人を対象として、日本語教師及び学習者を取り巻く社会情勢、教育政策等日本語教育に関わる基本的な環境、言語（外国語）習得の仕組み、日本語教育の教授法等を解説する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本語教育に関する基礎知識を身につけ、日本語教育に興味を持ち、その全体像を把握できること。</li> <li>グローバル化が進む今日の日本及び世界に対し、より広い視野と多様な見方を持つようになること。</li> </ul>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：授業の概要説明および日本語教育の現状の概観</p> <p>第2回 異文化接触と日本語教育：少子高齢化、定住外国人の増加、ボランティア教室</p> <p>第3回 年少者に対する日本語教育：帰国子女・外国人児童生徒に対する教育</p> <p>第4回 教師の役割①コースデザインとニーズ分析</p> <p>第5回 教師の役割②シラバス・デザイン</p> <p>第6回 教材分析</p> <p>第7回 教授法①：直接法 オーディオリンガルメソッド コミュニカティブ・アプローチ</p> <p>第8回 教授法②：授業見学</p> <p>第9回 教授法③：授業見学の振り返り</p> <p>第10回 授業の計画と実施①授業の組み立て方</p> <p>第11回 授業の計画と実施②初級レベルの場合：導入 基本練習 応用練習</p> <p>第12回 授業の計画と実施③中級以上のレベルの場合：ストラテジー教育 プロジェクトワーク</p> <p>第13回 フォリナートークとやさしい日本語</p> <p>第14回 模擬授業の準備</p> <p>第15回 模擬授業の実施、全体のまとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜小テストを実施するので、復習が必要である。			
成績評価の方法	授業での参加度や課題等提出物：50%、期末レポート：50%			
実務経験について				

授業科目	日本語史		担当者	小亀 拓也				
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	後期	[単位]	2単位	[必修/選択]	必修	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本語の史的変遷について学ぶ。</p> <p>【概要】 古代から現代に至る各時代の日本語について、音韻・文字・語彙・文法の観点から、資料を読み解きながら、その史的変遷を概観する。</p> <p>【到達目標】 上代から近代までの各時代における音韻・文字・語彙・文法の特徴を理解した上で、現代日本語の成立に至る過程を説明することができるようになる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 沖森卓也『日本語全史』(ちくま新書)</p>							
授業スケジュール	<p>第 1回 時代区分と資料：日本語の範囲，日本語の資料，日本語史の時代区分</p> <p>第 2回 奈良時代までの日本語 1：漢字の伝来，万葉仮名，上代特殊仮名遣い，頭音法則</p> <p>第 3回 奈良時代までの日本語 2：動詞の活用成立，形容詞・代名詞の整備，和語と漢語</p> <p>第 4回 平安時代の日本語 1：和文と漢文訓読文，平仮名・片仮名の誕生</p> <p>第 5回 平安時代の日本語 2：音韻の混同（ハ行転呼音），声調の表示，下一段活用の成立，ナリ活用とタリ活用</p> <p>第 6回 平安時代の日本語 3：音便と表記，代名詞，助動詞と助詞，漢語の日本語化</p> <p>第 7回 鎌倉時代の日本語 1：和漢混雑文，直音と拗音，開合，連声</p> <p>第 8回 鎌倉時代の日本語 2：終止形と連体形の合一化，ラ変と形容詞の活用変化，係り結びの崩壊</p> <p>第 9回 鎌倉時代の日本語 3：二段活用の一段化，コソアド体系の整備，助動詞類の変化，漢語の普及と意味変化</p> <p>第 10回 室町時代の日本語 1：天草本『伊曾保物語』，アクセントの変化，外来語の発達</p> <p>第 11回 室町時代の日本語 2：近代語法への変容，尊敬語・丁寧語の発達</p> <p>第 12回 江戸時代の日本語 1：上方語と江戸語，四つ仮名の区別の消滅，合拗音の直音化，漢語の多用，当て字</p> <p>第 13回 江戸時代の日本語 2：近代語法の確立，複合辞の増加，敬語表現の細分化</p> <p>第 14回 明治以降の日本語：言文一致，現代表記の確立，漢語の急増，外来語の使用</p> <p>第 15回 日本語学史</p>							
授業外学習(予習・復習)	予習：各自事前に予習資料に目を通していただくこと。／復習：授業で配布した文献資料等を再度読んでおくこと。							
成績評価の方法	筆記試験（テキスト・ノート等持ち込み可）の成績（60%），小テストの成績（40%）							
実務経験について								

(注) 日本語日本文学専攻の学生は、1年次 必修科目かつ教職必修。

授業科目	日本文法論		担当者	小亀 拓也				
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	前期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 現代日本語の文法について学ぶ。</p> <p>【概要】 現代日本語の文法に関する基礎的な知識を身につける。</p> <p>【到達目標】 現代日本語文法の基礎的な知識を身につけ、身の回りの言語現象について分析できるようになる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 1年次に「日本語学概論」で使用した教科書を持参すること。</p> <p>(2) 授業中に紹介します。</p>							
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション：文とは、文法とは</p> <p>第 2回 品詞論 1：名詞（普通名詞・固有名詞，代名詞，形式名詞）</p> <p>第 3回 品詞論 2：動詞（活用，自動詞・他動詞，意志動詞・無意志動詞，本動詞・補助動詞）</p> <p>第 4回 品詞論 3：形容詞，副詞，連体詞，接続詞，感動詞</p> <p>第 5回 品詞論 4：助詞（格助詞，副助詞，係助詞，接続助詞，終助詞）</p> <p>第 6回 品詞論 5：復習とまとめ</p> <p>第 7回 構文論 1：文の種類</p> <p>第 8回 構文論 2：ヴォイス（受身，使役）</p> <p>第 9回 構文論 3：アスペクト</p> <p>第 10回 構文論 4：テンス</p> <p>第 11回 構文論 5：モダリティ</p> <p>第 12回 構文論 6：連体修飾</p> <p>第 13回 構文論 7：条件節</p> <p>第 14回 構文論 8：「は」と「が」</p> <p>第 15回 まとめ</p> <p>以上の予定ですが、進行状況次第で変更の可能性があります。</p>							
授業外学習(予習・復習)	予習：次回授業までに配布された文献を読んでいただくこと。／復習：毎授業冒頭に復習小テストを行う。							
成績評価の方法	筆記試験（テキスト・ノート等持ち込み可）の成績（60%），小テストの成績（40%）							
実務経験について								

授業科目	日本語学講義		担当者	小亀 拓也				
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	後期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 1年次に「日本語学概論」で扱った諸問題について、より専門的な見地から分析・考察する。 また「日本語学概論」で扱わなかった内容についても検討し、より広範な日本語学的知識を獲得する。</p> <p>【概要】 日本語学の諸分野（音声学・音韻論・意味論・統語論・語用論など）の基礎的な概念を踏まえ、具体的な言語現象を分析する。</p> <p>【到達目標】 日本語学の基本的な考え方を習得し、身の回りの言語現象について、自力で分析・考察・表現できるようになる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント (2) 授業中に紹介します。</p>							
授業スケジュール	<p>第 1回 世界の言語における「日本語」の位置づけ 第 2回 音の作り方1：母音と子音，アクセント，リズム，イントネーション 第 3回 音の作り方2：単音と音素，弁別的素性，音素配列論 第 4回 単語の仕組み：形態素，語根と接辞，複合と派生，逆成，縮約，異分析 第 5回 意味の世界1：同音語と多義語，メタファー，メトニミー，シネクドキー 第 6回 意味の世界2：同義語と類義語，対義語，レトロニム，カテゴリーとプロトタイプ 第 7回 文の構造：構成素，樹形図，人称・性・数・格，冠詞 第 8回 文の意味：文法カテゴリー（態，時，相，法） 第 9回 談話の仕組み：文脈，直示，一貫性，結束性 第 10回 会話の仕組み：発話行為，協調の原理，格率，会話分析 第 11回 言語と変異：変異，地域方言，社会方言，多言語使用 第 12回 言語と変化：言語接触，言語政策，言語計画 第 13回 文の理解：構文解析，あいまい文，袋小路文，眼球運動 第 14回 文の産出：言い間違い，語彙化，レンマ，舌先現象，プライミング 第 15回 まとめ 以上の予定ですが，進行状況次第で変更の可能性があります。</p>							
授業外学習(予習・復習)	予習：次回授業までに配布された文献を読んでくること。／復習：毎授業冒頭に復習小テストを行う。							
成績評価の方法	筆記試験（テキスト・ノート等持ち込み可）の成績（70%），小テストの成績及び授業での発言内容（30%）							
実務経験について								

授業科目	日本語学講読 I		担当者	小亀 拓也				
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	前期	[単位]	1単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本語学の基本的な研究方法について学ぶ。</p> <p>【概要】 「日本語学」という学問分野がどのような問題意識に基づくものであるのか，具体的にはどのような現象を対象とするのか，観察や分析の方法にはどのような観点があり得るのか，といったことについて学ぶ。</p> <p>【到達目標】 普段何気なく使用している「日本語」という言語について，客観的に眺めることができるようになる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント (2) 授業中に紹介します。</p>							
授業スケジュール	<p>第 1回 導入：辞書，単語，普通名詞，固有名詞 第 2回 意味1：2つのカテゴリー観について 第 3回 意味2：意味の拡張，同音異義と多義 第 4回 意味3：比喻（直喩・隠喩・換喩・提喩） 第 5回 意味4：「意義・言葉・経験」（渡辺実） 第 6回 意味5：日本語の助詞・助動詞の多義 第 7回 日本語と他言語との比較（言語類型論） 第 8回 音声と文字：文字と標記の不一致，長音 第 9回 音声と書記：音の変化，語順，繰り返し 第 10回 あいまい文：意味理解，係り受け，省略 第 11回 話し言葉と書き言葉1：話し言葉の特徴 第 12回 話し言葉と書き言葉2：書き言葉の特徴 第 13回 コミュニケーションの失敗：会話の意図 第 14回 スタイルの違い：普通体と丁寧体，混淆 第 15回 まとめ 以上の予定ですが，進行状況次第で変更の可能性があります。</p>							
授業外学習(予習・復習)	予習：次回授業までに配布されたプリントを読んでくること。／復習：毎授業冒頭に復習小テストを行う。							
成績評価の方法	筆記試験（テキスト・ノート等持ち込み可）の成績（70%），小テストの成績（30%）							
実務経験について								

授業科目	日本語学講読Ⅱ		担当者	小亀 拓也
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	後期	[単位]	1単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本語の方言 (学) に関する基礎的な知識を学び、そこで得た知見をもとに自身の方言について分析・考察し、発表する。</p> <p>【概要】 日本語の方言について、方言研究の各分野を概観する。学生諸氏にも調査・分析を実際に行ってもらい、研究発表という形で報告してもらう。</p> <p>【到達目標】 方言を多角的な視点から捉えることができるようになる。自身の方言を、学問的な観点から分析することができるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント (2) 授業中に紹介します。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 授業の進め方の説明 第 2 回 方言の区画と東西差, 方言周囲論 第 3 回 発音・アクセント・イントネーションの地域差① 第 4 回 発音・アクセント・イントネーションの地域差② 第 5 回 アスペクト・条件表現の地域差 第 6 回 オノマトペ・あいさつの地域差 第 7 回 研究発表準備 第 8 回 研究発表 第 9 回 話の進め方・コミュニケーション意識の地域差 第 10 回 敬語表現・卑罵表現の地域差 第 11 回 共通語化の進行, 方言と共通語の使い分け 第 12 回 方言に対する受け止め方の変化, 方言コンプレックス, 方言プレステージ 第 13 回 リアル方言とヴァーチャル方言, 方言コスプレ 第 14 回 研究発表準備 第 15 回 研究発表</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習: 次回授業までに配布されたプリントを読んでくること。/復習: 毎授業冒頭に復習小テストを行う。			
成績評価の方法	筆記試験 (テキスト・ノート等持ち込み可) と研究発表の成績 (70%), 小テストの成績 (30%)			
実務経験について				

授業科目	日本語学演習Ⅰ・Ⅲ		担当者	小亀 拓也
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	後期	[単位]	1単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本語学 (特に音声・音韻・文法) に関する文献を読み、それをもとに議論する。</p> <p>【概要】 授業の前半では、担当者が文献の内容をまとめ、発表する。その際、他の受講生は文献をあらかじめ熟読した上で、疑問点や問題点について質問する。授業の後半では、教員も交えディスカッションする。</p> <p>【到達目標】 演習を行いながら、日本語学 (特に音声・音韻・文法) に対する理解をさらに深める。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント (2) 授業中に紹介します。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 導入: 授業の概要を説明, 担当者を決める。 第 2 回 導入: 教師による発表 第 3 回 発表: 担当者が日本語学の文献を読み, 内容をまとめて発表する。 第 4 回 発表: 担当者が日本語学の文献を読み, 内容をまとめて発表する。 第 5 回 発表: 担当者が日本語学の文献を読み, 内容をまとめて発表する。 第 6 回 発表: 担当者が日本語学の文献を読み, 内容をまとめて発表する。 第 7 回 発表: 担当者が日本語学の文献を読み, 内容をまとめて発表する。 第 8 回 発表: 担当者が日本語学の文献を読み, 内容をまとめて発表する。 第 9 回 発表: 担当者が日本語学の文献を読み, 内容をまとめて発表する。 第 10 回 発表: 担当者が日本語学の文献を読み, 内容をまとめて発表する。 第 11 回 発表: 担当者が日本語学の文献を読み, 内容をまとめて発表する。 第 12 回 発表: 担当者が日本語学の文献を読み, 内容をまとめて発表する。 第 13 回 発表: 担当者が日本語学の文献を読み, 内容をまとめて発表する。 第 14 回 発表: 担当者が日本語学の文献を読み, 内容をまとめて発表する。 第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜課題等を出すので授業外学習が必要である。発表担当の際には (追加の補充調査を含め) 15 時間程度充てるものとする。			
成績評価の方法	担当者として作成した発表資料および口頭発表の成績 (70%) + 質疑応答等の授業中の発言 (30%)			
実務経験について				

授業科目	日本語学演習Ⅱ		担当者	小亀 拓也	
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)	
	[学期]	前期	[単位]	1単位	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本語学 (特に音声・音韻・文法) に関する研究の方法、および論文作成の方法を身につける。</p> <p>【概要】 授業の前半では、担当者が文献の内容をまとめ、発表する。その際、他の受講生は文献をあらかじめ熟読した上で、疑問点や問題点について質問する。授業の後半では、教員も交えディスカッションする。</p> <p>【到達目標】 演習を行いながら、日本語学 (特に音声・音韻・文法) に対する理解をさらに深める。適切にレポートを書くことができる。</p>				
(1)テキスト	(1) プリント				
(2)参考文献	(2) 授業中に紹介します。				
授業スケジュール	<p>第 1 回 導入：授業の概要を確認、担当者を決める。</p> <p>第 2 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 3 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 4 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 5 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 6 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 7 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 8 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 9 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 10 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 11 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 12 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 13 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 14 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 15 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜課題等を出すので授業外学習が必要である。発表担当の際には (追加の補充調査を含め) 15 時間程度充てるものとする。				
成績評価の方法	担当者として作成した発表資料および口頭発表の成績 (70%) + 質疑応答等の授業中の発言 (30%)				
実務経験について					

授業科目	日本語学演習Ⅳ・Ⅵ		担当者	楊 虹	
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)	
	[学期]	後期	[単位]	1単位	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 語用論や社会言語学に関する基礎知識を学ぶ。</p> <p>【概要】 毎回、担当者がテキストの内容をまとめて、発表し、他の受講生は、テキストをあらかじめ熟読し、疑問点や問題点について質問し、担当者を中心にディスカッションを行う、といった形式で授業を進める。1年生は卒業研究に向けて研究テーマを決める、2年生は社会人になるためのさらなる批判的思考力を鍛える場として授業に取り組むよう求める。</p> <p>【到達目標】 演習を行いながら、語用論、社会言語学に対する理解を深める。</p>				
(1)テキスト	(1) プリントを配布する。				
(2)参考文献	(2) 授業中に紹介する。				
授業スケジュール	<p>第 1 回 授業の概要を説明し、各回の担当者を決める。</p> <p>第 2 回 語用論、社会言語学の分野の研究について</p> <p>第 3 回 配慮を考えるとときの視点① (2年生担当)</p> <p>第 4 回 配慮を考えるとときの視点② (2年生担当)</p> <p>第 5 回 配慮を考えるとときの視点③ (2年生担当)</p> <p>第 6 回 日本語の配慮の多面性① (1年生担当)</p> <p>第 7 回 日本語の配慮の多面性② (1年生担当)</p> <p>第 8 回 卒論中間報告 (2年生)</p> <p>第 9 回 役割語① (2年生担当)</p> <p>第 10 回 役割語② (2年生担当)</p> <p>第 11 回 談話分析 (1年生)</p> <p>第 12 回 会話分析 (1年生)</p> <p>第 13 回 卒論計画発表 (1年生)</p> <p>第 14 回 卒論発表練習 (2年生)</p> <p>第 15 回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜課題等を出すので、授業外学習が必要である。				
成績評価の方法	授業への参加度：50%、発表資料および発表のパフォーマンス評価、期末レポート：50%				
実務経験について					



授業科目	日本語学演習Ⅴ		担当者	楊 虹
	[履修年次] 2年	[学期] 前期	[単位] 1単位	[授業外対応] 適宜対応 (要予約)
	[必修/選択] 選択	[授業形態]	演習方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 語用論，社会言語学の分野に関する研究の方法及び学術的文章の作成を学ぶ。</p> <p>【概要】 毎回，担当者がテキストの内容をまとめて，発表し，他の受講生は，テキストをあらかじめ熟読し，疑問点や問題点について質問し，担当者を中心にディスカッションを行う，といった形式で授業を進める。卒業研究に向けて研究テーマを決め，論文執筆の基礎を学ぶ場として授業に取り組むよう求める。</p> <p>【到達目標】 演習を行いながら，語用論，社会言語学に対する理解を深める，簡単な学術的レポートが作成できる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 授業の概要を説明し，各回の担当者を決める。</p> <p>第 2 回 担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 3 回 担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 4 回 担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 5 回 レポート作成指導①</p> <p>第 6 回 担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 7 回 レポート作成指導②</p> <p>第 8 回 担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 9 回 担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 10 回 レポート作成指導③</p> <p>第 11 回 担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 12 回 レポート作成指導④</p> <p>第 13 回 担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 14 回 レポートに基づく口頭発表</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜課題等を出すので，授業外学習が必要である。			
成績評価の方法	期末レポート：50%，発表資料および発表のパフォーマンス評価：50%			
実務経験について				

授業科目	日本語表現法		担当者	小亀 拓也
	[履修年次] 1年	[学期] 前期	[単位] 2単位	[授業外対応] 適宜対応 (要予約)
	[必修/選択] 選択	[授業形態]	講義方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ことば (特に文章表現) によって，事実を正確に示して意見を的確に伝える方法を学ぶ。</p> <p>【概要】 ことば (特に文章表現) によって事実を正確に示し，意見を的確に伝える方法を身につける。</p> <p>【到達目標】 口頭発表やレポート作成が適切にできる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 未定</p> <p>(2) 授業中に紹介します。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 導入：自己紹介</p> <p>第 2 回 絵をことばに変える，ことばを絵に変える (図，空間，地図)</p> <p>第 3 回 情報収集の方法：辞典・事典類の活用法，図書館の利用法</p> <p>第 4 回 ネット利用：ドメイン，電子メール利用，リンク集作成</p> <p>第 5 回 調査方法：論文を調べる，新聞を調べる，引用・書誌情報</p> <p>第 6 回 調査開始：班分け発表，リーダー選出，図書館・ネット調査</p> <p>第 7 回 調査実施：課題についての調査続行，中間報告</p> <p>第 8 回 中間発表：口頭発表と質疑応答</p> <p>第 9 回 図表：統計などの数字の扱い，図表の読み方と説明の仕方</p> <p>第 10 回 レポート：文章表現の基本 (文体，表記，原稿の使い方)</p> <p>第 11 回 レポート：文章を書く技法 (パラグラフライティング，推敲)</p> <p>第 12 回 レポート：電子ツールを用いた文書作成法 (マッピング，アウトラインプロセッサ，編集)</p> <p>第 13 回 レポート：わかりやすく書く技法</p> <p>第 14 回 レポート：提出</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	毎回課題を課す。また，毎授業冒頭に小テストを行う。			
成績評価の方法	レポート (40%) + 小テスト (30%) + 課題 (30%)			
実務経験について				

(注) 教職必修

授業科目	日本語表現法演習		担当者	小亀 拓也
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	後期	[単位]	1単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ことば（音声言語および文章表現）によって、事実を正確に示して意見を的確に伝える方法を、演習を通して学ぶ。</p> <p>【概要】 前期の日本語表現法の講義での学習を生かしながら、課題に対するレポート作成、および口頭発表を行ってもらおう。 この授業は演習方式であるが、実際には前期の日本語表現法と一体のものとして進めていくので、一部講義も織り込んでいく。 その意味で、日本語表現法と併せて受講することが望ましい。</p> <p>【到達目標】 口頭発表やレポート作成が適切にできる。</p>			
(1)テキスト	(1) 未定			
(2)参考文献	(2) 授業中に紹介します。			
授業スケジュール	第 1回 プレゼンテーションの基本 (目的と態度) 第 2回 スライドのデザインと制作1 第 3回 スライドのデザインと制作2 第 4回 プレゼンテーション実践 第 5回 課題レポート1: 作成 第 6回 課題レポート1: 発表 第 7回 課題レポート1: 討論 第 8回 課題レポート2: 作成 第 9回 課題レポート2: 発表 第 10回 課題レポート2: 討論 第 11回 課題レポート3: 作成 第 12回 課題レポート3: 発表 第 13回 課題レポート3: 討論 第 14回 試験レポート: 資料収集 第 15回 試験レポート: テーマに関する討論			
授業外学習(予習・復習)	ネット調査, 図書館調査, レポート作成など, 毎回授業の中で指示する。なお, 毎授業冒頭に小テストを行う。			
成績評価の方法	成果資料 (レポート, PPT) の出来 (50%) + 小テスト (30%) + グループ討論や発表等の授業中の発言・コメント (20%)			
実務経験について				

授業科目	対照言語学		担当者	楊 虹
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	後期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 対照言語学の基礎を学ぶ。</p> <p>【概要】 この授業では、対照言語学とはどのような学問かについて学ぶ。日本語と英語、中国語を中心とした外国語の話しことばの文法の比較対照を通して、それぞれの特徴を明らかにし、日本語の話し言葉の特徴をより深く理解する。また、言語学習または言語教育における対照言語学の役割と応用についても触れる。</p> <p>【到達目標】 日本語と外国語 (英語, 中国語) の主な共通点と相違点を理解し、実際の言語データを使って分析することができる。</p>			
(1)テキスト	(1) プリントを配布する。			
(2)参考文献	(2) 授業中に紹介する。			
授業スケジュール	第 1回 オリエンテーション: 対照言語学とはどんな学問か, 授業の概要説明 第 2回 日英中の対照 (1): 主語の立て方 第 3回 日英中の対照 (2): 主語の顕示と暗示 第 4回 日英中の対照 (3): 実際の発話における文の形 第 5回 日英中の対照 (4): 時に関する比較① 第 6回 日英中の対照 (5): 時に関する比較② 第 7回 日英中の対照 (6): 呼びかけ語の比較① 第 8回 日英中の対照 (7): 呼びかけ語の比較② 第 9回 日英中の対照 (8): 待遇表現に関する比較① 第 10回 日英中の対照 (9): 待遇表現に関する比較② 第 11回 日英中の対照 (10): 言語行動に関する比較① 第 12回 日英中の対照 (11): 言語行動に関する比較② 第 13回 発表準備 第 14回 学生による発表 第 15回 まとめ			
授業外学習(予習・復習)	適宜課題等を出すので, 授業外学習が必要である。			
成績評価の方法	授業への参加度及び発表: 60%, レポート: 40%			
実務経験について				

授業科目	日本文学史・古典Ⅰ		担当者	木戸 裕子	
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	オフィスアワーに準じる。	
	[学期]	前期	[単位]	2単位	
		[必修/選択]	必修	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】上代から中古までの文学史を各時代の社会的・文化的背景を踏まえて概観する。</p> <p>【概要】日本文学史・古典Ⅰは上代（奈良時代以前）から中古（平安時代）の和歌史・物語史までを対象とする。テキストに従って、ジャンルごとに解説していくが、高校の授業であまり触れることのない作品などには、できるかぎり実際に読み、具体的に理解できるようにしたい。教員採用試験受験者、四年制大学編入学希望者はテキスト全体に目を通しておかれたい。</p> <p>【到達目標】上代から中古に至る文学史の流れを理解し、文学史的知識を身につける。各ジャンルの特徴を知る。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 高木市之助『日本文学の歴史』 武蔵野書院</p> <p>(2) 吉田孝『飛鳥・奈良時代』岩波ジュニア新書、保立道久『平安時代』岩波ジュニア新書</p>				
授業スケジュール	<p>第 1回 はじめに：オリエンテーション、文学の発生、文学史の区分</p> <p>第 2回 古代その1：上代の説話文学（1）</p> <p>第 3回 古代その2：上代の説話文学（2）</p> <p>第 4回 古代その3：上代の説話文学（3）</p> <p>第 5回 古代その4：祝詞・宣命</p> <p>第 6回 古代その5：漢詩文</p> <p>第 7回 古代その6：上代の和歌・歌謡（1）</p> <p>第 8回 古代その7：上代の和歌・歌謡（2）</p> <p>第 9回 古代その8：上代の和歌・歌謡（3）</p> <p>第 10回 古代その9：中古の漢詩文（1）</p> <p>第 11回 古代その10：中古の漢詩文（2）</p> <p>第 12回 古代その11：中古の和歌（1）</p> <p>第 13回 古代その12：中古の和歌（2）</p> <p>第 14回 古代その13：中古の物語（1）</p> <p>第 15回 古代その14：中古の物語（2）</p>				
授業外学習(予習・復習)	授業中に紹介した作品を読む。 その他授業中に指示する。				
成績評価の方法	毎回の感想（ミニレポート）30% 筆記試験 70%				
実務経験について	なし				

授業科目	日本文学史・古典Ⅱ		担当者	木戸 裕子	
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	オフィスアワーに準じる。	
	[学期]	後期	[単位]	2単位	
		[必修/選択]	必修	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中古から中世までの文学史を各時代の社会的・文化的背景を踏まえて概観する。</p> <p>【概要】日本文学史・古典Ⅱは中古（平安時代）の和歌史・物語史から中世（鎌倉・室町時代）文学までを対象とする。テキストに従って、ジャンルごとに解説していくが、高校の授業であまり触れることのない作品などには、できるかぎり実際に読み、具体的に理解できるようにしたい。教員採用試験受験者、四年制大学編入学希望者はテキスト全体に目を通しておかれたい。</p> <p>【到達目標】中古から中世に至る文学史の流れを理解し、文学史的知識を身につける。各ジャンルの特徴を知る。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 高木市之助『日本文学の歴史』 武蔵野書院</p> <p>(2) 保立道久『平安時代』岩波ジュニア新書、五味文彦『武士の時代』岩波ジュニア新書</p>				
授業スケジュール	<p>第 1回 古代その15：中古の物語（3）源氏物語</p> <p>第 2回 古代その16：中古の物語（4）源氏物語</p> <p>第 3回 古代その17：中古の日記</p> <p>第 4回 古代その18：中古の随筆</p> <p>第 5回 古代その19：中古の歴史物語</p> <p>第 6回 古代その20：中古の説話</p> <p>第 7回 中世その1：中世の和歌（1）</p> <p>第 8回 中世その2：中世の和歌（2）</p> <p>第 9回 中世その3：中世の和歌（3）</p> <p>第 10回 中世その4：連歌・歌謡</p> <p>第 11回 中世その5：中世の漢詩文</p> <p>第 12回 中世その6：物語・日記・紀行・随筆</p> <p>第 13回 中世その7：歴史物語・説話文学</p> <p>第 14回 中世その8：戦記物語・謡曲</p> <p>第 15回 中世その9：謡曲・狂言</p>				
授業外学習(予習・復習)	授業中に紹介した作品を読む。 その他授業中に指示する。				
成績評価の方法	毎回の感想（ミニレポート）30% 筆記試験 70%				
実務経験について	なし				

授業科目	日本文学講義 I		担当者	木戸 裕子
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	オフィスアワーに準じる。
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】紫式部と一条朝の女房達</p> <p>【概要】平安時代中期、『源氏物語』作者の紫式部は、『紫式部日記』の中で、清少納言のことを「漢字を書き散らしているけれど、よくみれば足りない点が多い」と批判している。また、その他の同僚女房についても赤染衛門や和泉式部について長所や短所を交えて批評している。自分自身については漢字の一の字も書けないふりをしたと言いつつ、「中宮の御前で白氏文集を読んだ」と記す。『紫式部日記』の記述と、それ以外の史料から見て取れる彼女たちの実態はどのように違うのか、又は同じなのか。2024年度の大河ドラマの主人公ともなった紫式部と</p> <p>【到達目標】平安時代の女房文学について学ぶ。和歌の解釈について学ぶ。平安時代の女性の生き方を考える。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 服藤早苗『平安朝 女の生き方』小学館 ビギナーズクラシック『枕草子』角川ソフィア文庫 ビギナーズクラシック『紫式部日記』角川ソフィア文庫 上村悦子『王朝の秀歌人 赤染衛門』新典社 久保木寿子『和泉式部実存を見つめる』新典社</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション：『紫式部日記』に見る女房評</p> <p>第 2回 紫式部（1）：紫式部の系図と女房出仕の経緯</p> <p>第 3回 紫式部（2）：『紫式部日記』清少納言批判と「日本紀の御局」</p> <p>第 4回 紫式部（3）：源氏物語</p> <p>第 5回 清少納言（1）：清少納言の系図と女房出仕の経緯</p> <p>第 6回 清少納言（2）：『枕草子』随想的章段に見る清少納言の仕事観</p> <p>第 7回 清少納言（3）：『枕草子』日記的章段に見る清少納言と定子</p> <p>第 8回 和泉式部（1）：和泉式部の系図と説話に見る評判</p> <p>第 9回 和泉式部（2）：『和泉式部日記』和泉式部は恋多き女か</p> <p>第 10回 和泉式部（3）：『和泉式部集』歌人和泉式部</p> <p>第 11回 赤染衛門（1）：赤染衛門の系図と赤染衛門良妻賢母説</p> <p>第 12回 赤染衛門（2）：『赤染衛門集』夫大江匡衡との関係</p> <p>第 13回 赤染衛門（3）：『赤染衛門集』代作する赤染衛門</p> <p>第 14回 赤染衛門（4）：『赤染衛門集』赤染衛門と清少納言、和泉式部</p> <p>第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	授業中に指示する			
成績評価の方法	毎回の感想（ミニレポート）20% レポート80%			
実務経験について	なし			

授業科目	日本文学講義 I		担当者	木戸 裕子
	〔履修年次〕	1,2年	授業外対応	オフィスアワーに準じる。
	〔学期〕	後期	〔単位〕	1単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】『万葉集』巻一、二の講読を通して上代文学に親しむ</p> <p>【概要】『万葉集』は現存する日本最古の歌集だが、その中でも巻一、巻二はもっとも古い時代の歌が収録されており、また、勅撰集の性質の強い巻と考えられている。この二巻の作品を読むことで、上代人にとっての歌とは何かを考えたい。本講読は基本的に、受講生による輪読形式で読み進めていき、適宜教員が説明を補っていく。受講者数にもよるが、一回の授業で3人から5人が担当することになる。</p> <p>【到達目標】万葉仮名についての基礎的な知識を身につける。『万葉集』について学び、上代和歌と平安以降の和歌の違いを知る。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 佐竹昭広・山田英雄・工藤力男・大谷雅夫・山崎福之校注『万葉集』(1) 岩波文庫</p> <p>(2) 渡部泰明編『和歌のルール』笠間書院</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション 『万葉集』について（编者、諸本、万葉仮名など）</p> <p>第 2回 巻一、巻二について。教員による模範演習</p> <p>第 3回 『万葉集』巻一輪読その1：雑歌1</p> <p>第 4回 その2：雑歌2</p> <p>第 5回 その3：雑歌3</p> <p>第 6回 その4：雑歌4</p> <p>第 7回 その5：雑歌5</p> <p>第 8回 『万葉集』巻二輪読その1：相聞1</p> <p>第 9回 その2：相聞2</p> <p>第 10回 その3：相聞3</p> <p>第 11回 その4：相聞4</p> <p>第 12回 その5：挽歌1</p> <p>第 13回 その6：挽歌2</p> <p>第 14回 その7：挽歌3</p> <p>第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	輪読担当の準備。『万葉集』について全体的内容を把握しておく。その他は授業中に指示する。			
成績評価の方法	輪読担当60%、レポート40%			
実務経験について	なし			

授業科目	日本文学講読Ⅱ		担当者	木戸 裕子	
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	オフィスアワーに準じる。	
	〔学期〕	後期	〔単位〕	1単位	
		〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】『伊勢物語』の講読を通して、平安時代の歌物語に親しむとともに、変体仮名（くずし字）の読み方の基礎を身につける。</p> <p>【概要】高校の古文の授業でもおなじみの『伊勢物語』だが、「昔男」と俗称される主人公は、平安の昔から、ある時は雅な貴公子として、ある時は菩薩の生まれ変わりとして、またある時は好色の神様として多くの人々に愛されてきた。本講読では江戸時代初期の木活字本『嵯峨本伊勢物語』の影印本（写真版）を用いて、昔男の恋と友情の物語を読んでいく。</p> <p>【到達目標】『伊勢物語』についての知識を身につける。『伊勢物語』が後世に残した影響について知る。基本的な変体仮名が読めるようにする。</p>				
(1)テキスト	(1) 片桐洋一編『伊勢物語 慶長十三年刊 嵯峨本第一種』和泉書院 『字典かな』笠間書院				
(2)参考文献	(2) 角川ビギナーズクラシック『伊勢物語』角川ソフィア文庫、渡部泰明編『和歌のルール』笠間書院				
授業スケジュール	<p>第1回 はじめに：『伊勢物語』について（書名、主人公など）</p> <p>第2回 初段1：昔男の登場 変体仮名の読み方1</p> <p>第3回 初段2：和歌と語りの関係 変体仮名の読み方2</p> <p>第4回 三段：二条後の物語その1 変体仮名の読み方3</p> <p>第5回 四段：二条後の物語その2 変体仮名の読み方4</p> <p>第6回 五段：二条後の物語その3 変体仮名の読み方小テスト1</p> <p>第7回 六段1：二条後の物語その4</p> <p>第8回 六段2：二条後の物語その5</p> <p>第9回 七・八段：東下りその1 浅間の山</p> <p>第10回 九段1：東下りその2 八橋・宇津の山</p> <p>第11回 九段2：東下りその3 富士の山・隅田川</p> <p>第12回 六九段1：伊勢の斎宮その1 歴史との関わり 変体仮名の読み方小テスト2</p> <p>第13回 六九段2：伊勢の斎宮その2 漢文学との関わり</p> <p>第14回 一六段：男の友情</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	各段のくずし字を読めるように復習する。				
成績評価の方法	小テスト20% 筆記試験80%				
実務経験について	なし				

授業科目	日本文学講読Ⅲ		担当者	木戸 裕子	
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	オフィスアワーに準じる。	
	〔学期〕	前期	〔単位〕	1単位	
		〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中古文学の代表的作品である『源氏物語』を、近世初期の注釈本『首書 源氏物語』の影印本を使って読む</p> <p>【概要】講読Ⅲでは毎年『源氏物語』の一卷を受講生の輪読方式で読み進めていく。本年度は「桐壺」を読む。「桐壺」は源氏物語五十四帖の冒頭で、高等学校の国語の時間にその書き出しの部分『いずれの御時にか、女御更衣.....』は必ず学ぶ、有名な巻である。桐壺帝と桐壺更衣の間に生まれた皇子が、なぜ皇族ではなく源の姓を賜り臣下となったのか、その後の光源氏の人生を方向付ける巻を丁寧に読んでいく。テキストは江戸時代の注釈付き本文『首書 源氏物語』を用い、受講生による輪読形式で読み進める。</p> <p>【到達目標】『源氏物語』について基礎的な知識を身につける。中世の主な『源氏物語』注釈について作者と注釈の特徴を知る。『源氏物語』の構成と登場人物について考える。</p>				
(1)テキスト	(1) 片桐 洋一 編『首書 源氏物語 総論・桐壺』和泉書院				
(2)参考文献	(2) ビギナーズクラシック『源氏物語』角川ソフィア文庫 『源氏物語の鑑賞と基礎知識 桐壺』至文堂				
授業スケジュール	<p>第1回 はじめに：『源氏物語』とは 作者紫式部について</p> <p>第2回 『源氏物語』の享受：テキスト『首書源氏物語』について</p> <p>第3回 「桐壺」巻を読むために：あらすじと登場人物の紹介。</p> <p>第4回 「桐壺」輪読：その1 担当の役割説明</p> <p>第5回 「桐壺」輪読：その2</p> <p>第6回 「桐壺」輪読：その4</p> <p>第7回 「桐壺」輪読：その5</p> <p>第8回 補足説明：紫式部と「桐壺」と漢詩文</p> <p>第9回 「桐壺」輪読：その6</p> <p>第10回 「桐壺」輪読：その7</p> <p>第11回 「桐壺」輪読：その8</p> <p>第12回 「桐壺」輪読：その9</p> <p>第13回 「桐壺」輪読：その10</p> <p>第14回 「桐壺」輪読：その11</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	輪読担当の準備。『源氏物語』について全体の内容を把握しておく。その他は授業中に指示する。				
成績評価の方法	輪読担当50% 筆記試験50%				
実務経験について	なし				

授業科目	日本文学演習Ⅰ・Ⅲ		担当者	木戸 裕子	
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	オフィスアワーに準じる。	
	[学期]	後期	[単位]	1単位	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】平安時代の私家集のなかでも歌物語的な性格が強いものを輪読し、歌集と物語文学との関わりを考える。あわせて文学研究における資料調査の方法を学ぶ。</p> <p>【概要】本演習は、新たに1年生が加わり、1年生の日本文学演習Ⅰと2年生の日本文学演習Ⅲを合同で行なうことにより、2年生には1年生に説明することで、いっそう作品に対する理解が深まることを期待する。また、1年生には、2年生の発表を聴くことを通して、調査、発表の仕方を学んでほしい。取り扱う作品は前期日本文学演習Ⅱと同じく『篁物語』である。</p> <p>【到達目標】和歌解釈の方法を身につける。話し合いを通じて作品理解を深める。平安時代の文学状況を理解する</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント、『字典かな』</p> <p>(2) 片桐洋一『歌枕歌ことば辞典増訂版』笠間書院</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 2年生によるオリエンテーション：作品概要の説明</p> <p>第2回 グループワーク1：演習の進め方について。辞書索引の引き方、資料の探し方</p> <p>第3回 グループワーク2：翻字と解釈の実習</p> <p>第4回 グループワーク3：翻字と解釈の実習その2</p> <p>第5回 篁物語を読む：2</p> <p>第6回 篁物語を読む：3</p> <p>第7回 篁物語を読む：4</p> <p>第8回 篁物語を読む：5</p> <p>第9回 篁物語を読む：6</p> <p>第10回 篁物語を読む：7</p> <p>第11回 篁物語を読む：8</p> <p>第12回 篁物語を読む：9</p> <p>第13回 篁物語を読む：10</p> <p>第14回 篁物語を読む：11</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	演習担当の準備				
成績評価の方法	日本文学演習Ⅰ 担当時外発言 20% レポート 80% 日本文学演習Ⅲ 担当時外発言 20% 担当発表 80%				
実務経験について	なし				

授業科目	日本文学演習Ⅱ		担当者	木戸 裕子	
	[履修年次]	2年	授業外対応	オフィスアワーに準じる。	
	[学期]	前期	[単位]	1単位	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】平安時代の私家集のなかでも歌物語的な性格が強いものを輪読し、歌集と物語文学との関わりを考える。あわせて文学研究における資料調査の方法を学ぶ。</p> <p>【概要】昨年度に引き続き、『篁物語(たかむらものがたり)』を読む。篁物語は平安初期に実在した文人・官僚であった小野篁を主人公とした歌物語で、『小野篁集』の題で私家集として扱われることもある。篁と妹をめぐる物語を読む中で、平安時代における、物語と家集の関係を考えてとともに、平安時代の貴族の生活と文化について知見を深めたい。</p> <p>【到達目標】和歌解釈の方法を身につける。平安時代の貴族文化について考える。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント、『字典かな』</p> <p>(2) 片桐洋一『歌枕歌ことば辞典増訂版』笠間書院</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：前年度の内容の確認</p> <p>第2回 篁物語について：</p> <p>第3回 篁物語を読む：1</p> <p>第4回 篁物語を読む：2</p> <p>第5回 篁物語を読む：3</p> <p>第6回 篁物語を読む：4</p> <p>第7回 篁物語を読む：5</p> <p>第8回 篁物語を読む：6</p> <p>第9回 篁物語を読む：7</p> <p>第10回 篁物語を読む：8</p> <p>第11回 篁物語を読む：9</p> <p>第12回 篁物語を読む：10</p> <p>第13回 篁物語を読む：11</p> <p>第14回 篁物語を読む：12</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	演習担当の準備				
成績評価の方法	担当発表 80%、担当時以外の発言(質問、意見など) 20%				
実務経験について	なし				

授業科目	日本文学講義Ⅱ		担当者	竹本 寛秋				
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	前期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本近代の詩を読む</p> <p>【概要】 今、日本で一般に「詩」と呼ばれるものは、明治以降、日本の西洋化とともに作られた、比較的新しいジャンルです。日本近現代の詩の歴史を、実際の作品を読み解きながら振り返り、多様な日本の「詩」の世界を考えます。</p> <p>【到達目標】 「文学」を多様な角度から読む方法を理解する。</p>							
(1)テキスト	(1) プリント							
(2)参考文献	(2) 大岡信『蕩児の家系—日本現代詩の歩み』(思潮社)、他授業中に紹介する							
授業スケジュール	第 1回 ガイダンス：日本の詩を読むために 第 2回 北村透谷『楚囚之詩』 第 3回 島崎藤村『若菜集』 第 4回 薄田泣菫『白羊宮』 第 5回 高村光太郎『道程』 第 6回 高村光太郎『道程』 第 7回 萩原朔太郎『月に吠える』 第 8回 萩原朔太郎『氷島』 第 9回 前半のまとめ 第 10回 大手拓次『藍色の墓』 第 11回 宮澤賢治『春と修羅』 第 12回 宮澤賢治『春と修羅』 第 13回 中原中也『山羊の歌』 第 14回 中原中也『山羊の歌』 第 15回 まとめ							
授業外学習(予習・復習)	対象テキストの精読。							
成績評価の方法	授業ごとのコメントカード (40%)、レポート (60%)							
実務経験について	なし							

授業科目	日本文学講義Ⅳ		担当者	丹羽 謙治				
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	授業終了後に対応				
	[学期]	前期	[単位]	1単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】井原西鶴の浮世草子を読む</p> <p>【概要】江戸時代前期の散文作品を鑑賞する。浮世草子という娯楽的な作品を多数世に送り出した大坂の作者、井原西鶴が当世をどのようなまなざしで描いたのかを考えながら、町人もの・雑話ものの浮世草子を中心に鑑賞する。</p> <p>【到達目標】江戸時代前期の風俗や習慣を正しく理解する。西鶴の人間を描く手法、文章表現の方法を理解する。</p>							
(1)テキスト	(1) プリントを配布する。							
(2)参考文献	(2) 新編日本古典文学全集『井原西鶴集 一～三』(小学館) その他は授業中に紹介する。							
授業スケジュール	第 1回 導入 文学史における時代区分 第 2回 近世文学・近世文学の特質について 第 3回 仮名草子と浮世草子 第 4回 『好色一代男』の成立 第 5回 『西鶴諸国はなし』巻1の2「見せぬ所は女大工」 第 6回 『西鶴諸国はなし』巻1の4「傘の御託宣」 第 7回 『西鶴諸国はなし』巻3の2「面影の焼残り」 第 8回 『西鶴諸国はなし』巻3の5「行末の宝船」 第 9回 『懷硯』巻4の4「人真似は猿の行水」 第 10回 『西鶴置土産』巻1の1「大釜のぬく残し」 第 11回 『西鶴置土産』巻2の2「人には棒振虫同前に思はれ」 第 12回 『西鶴織留』巻6の1「官女の移り気」 第 13回 『西鶴織留』巻4の1「家主どのの鼻柱」 第 14回 『世間胸算用』巻1の4「鼠の文づかひ」 第 15回 『世間胸算用』巻4の3「亭主の入替り」							
授業外学習(予習・復習)	授業前に配布されたテキストを読む。授業後は配布資料とテキストを読み、授業内容について確認をする。							
成績評価の方法	期末試験							
実務経験について	なし							

授業科目	日本文学講読Ⅴ		担当者	丹羽 謙治	
	〔履修年次〕	1,3年	授業外対応	授業終了後に対応	
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2単位	
		〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】近世紀行文を読む。江戸後期の大名島津斉宣の紀行とその娘で佐土原藩に嫁いだ島津随真院の紀行を読み比べる。</p> <p>【概要】本授業では江戸後期、江戸から南九州まで旅をした人物の紀行文について、注釈を付けながら読み進め、作者の目がどのような点に注がれていたのかに注目しながら鑑賞する。</p> <p>【到達目標】江戸後期の言語・風俗・習慣などについて正しく認識し、文章表現のジェンダーの差について理解する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 板坂耀子『江戸の紀行文』（中公新書）、崎山健文「史料紹介 文化二年春帰国紀行」（黎明館調査研究報告34）</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 島津斉宣とそのサロンについて</p> <p>第2回 島津斉宣と伊東陵舎</p> <p>第3回 島津斉宣文化二年春帰国紀行 文化2年（1805）3月16日～25日</p> <p>第4回 島津斉宣文化二年春帰国紀行 同年3月26日～27日</p> <p>第5回 島津斉宣文化二年春帰国紀行 同年3月28日～4月1日</p> <p>第6回 島津斉宣文化二年春帰国紀行 同年4月2日～6日</p> <p>第7回 島津斉宣文化二年春帰国紀行 同年4月7日～9日</p> <p>第8回 島津随真院道中日記 文久3（1863）年3月8日～9日</p> <p>第9回 島津随真院道中日記 同年3月10日～14日</p> <p>第10回 島津随真院道中日記 同年3月15日～17日</p> <p>第11回 島津随真院道中日記 同年3月18日～20日</p> <p>第12回 島津随真院道中日記 同年3月21日～22日</p> <p>第13回 島津随真院道中日記 同年3月23日～24日</p> <p>第14回 島津随真院道中日記 同年3月25日～26日</p> <p>第15回 島津随真院道中日記 同年3月27日～28日</p>				
授業外学習(予習・復習)	授業前に配布されたテキストを読む。授業後は配布資料とテキストを読み、授業内容について確認をする。				
成績評価の方法	期末試験				
実務経験について					

授業科目	日本文学講読Ⅵ		担当者	竹本 寛秋	
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	適宜対応（要予約）	
	〔学期〕	前期	〔単位〕	1単位	
		〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>日本近代の文学テキストを、様々な角度から検討する</p> <p>【概要】</p> <p>日本近代の詩、短歌、小説を、様々な観点から読み解く。小説の方法論、言語表現の仕組み、時代毎の価値観などを理解し、テキストについて根拠を持って検討できるようになるとともに、現代を対象化する視点を身につける。</p> <p>※対象とする小説作品は変更の可能性がある。</p> <p>【到達目標】</p> <p>「文学」を多様な角度から読む方法を理解する。</p> <p>テキストを基にした妥当な読みを提示でき、問題意識を持って、報告にまとめることができる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 適宜、授業中に紹介する。</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 梶井基次郎「檸檬」</p> <p>第3回 結核の時代と文学</p> <p>第4回 芥川龍之介「蜜柑」</p> <p>第5回 科学技術と文学</p> <p>第6回 中島敦「マリヤン」</p> <p>第7回 日本の国境と日本文学</p> <p>第8回 前半のまとめ</p> <p>第9回 萩原朔太郎「猫町」</p> <p>第10回 心理学と文学</p> <p>第11回 宮澤賢治「猫の事務所」</p> <p>第12回 原稿、草稿と文学</p> <p>第13回 太宰治「道化の華」</p> <p>第14回 「語り」からテキストを読み解く</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	対象テキストの精読と検討。				
成績評価の方法	毎回のミニレポート（40%）、レポート（60%）				
実務経験について	なし				



授業科目	日本文学講読Ⅶ				担当者	竹本 寛秋		
	[履修年次]	1年			授業外対応	適宜対応 (要予約)		
	[学期]	後期	[単位]	1単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> 小説を分析するための様々な方法論について学ぶ</p> <p><b>【概要】</b> 文学研究の基礎的な方法論を身につける。文学研究においても、客観的な妥当性のもとに結論を導き出す方法論が、様々な蓄積されてきた。それらの方法論を学び、様々な文学テキストに応用することで、素朴な感想にとどまらない読みの可能性を見出し、客観的、論理的に考察し、文章として表現する能力を身につける。</p> <p><b>【到達目標】</b> 文学研究に必要となる、テキスト読解の方法を実践できる。 テキストを基にした妥当な読みを提示し、客観的、論理的な考察のもとに、報告にまとめることができる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 小平麻衣子『小説は、わかってくればおもしろい』慶應義塾大学出版会 (2) 適宜、授業中に紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス：授業の進め方、感想と研究の違い 第 2 回 志賀直哉「小僧の神様」：語り手・テキスト・焦点化 第 3 回 夢野久作「瓶詰地獄」：テキストの「空白」 第 4 回 太宰治「葉桜と魔笛」：一人称の語り 第 5 回 中島敦「文字禍」：テキストと時代背景 第 6 回 井伏鱒二「朽助のゐる谷間」：本文校異 第 7 回 川端康成「水月」：三人称の語り 第 8 回 有吉佐和子「亀遊の死」：小説と歴史 第 9 回 川上弘美「蛇を踏む」：固有名詞の問題 第 10 回 久米正雄「不死鳥」：小説と挿絵 第 11 回 堀辰雄「風立ちぬ」：小説の受容の問題 第 12 回 倉田由美子「暗い旅」：論争について 第 13 回 資料調査について 第 14 回 文学史について 第 15 回 全体のまとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	対象テキストの精読と検討。							
成績評価の方法	毎回のミニレポートと授業内での活動 (40%)、レポート (60%)							
実務経験について	なし							

授業科目	日本文学演習Ⅳ・Ⅵ				担当者	竹本 寛秋		
	[履修年次]	1,2年			授業外対応	適宜対応 (要予約)		
	[学期]	後期	[単位]	1単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> 近現代文学の代表的な作品を取り上げ、研究的視点からテキストを検討する。</p> <p><b>【概要】</b> 明治から現代までの近現代文学作品を取り上げ、研究的視点から検討する。1年生はテキストの中から対象を選び発表する。2年生は関心のある作家について発表する。</p> <p><b>【到達目標】</b> 文学研究の方法論を身につけ、根拠を示して発表することができる。様々な資料を使い、テキストを複数の角度から検討できる。自分の考えをまとめ、ディスカッションすることができる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 小林真大『文学のトリセツ [新装版]』五月書房新社 (2) 適宜、授業中に紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス：授業の進め方、担当者の決定 第 2 回 文学研究の方法：研究の多様な方法論について 第 3 回 資料の扱い方：資料の収集方法、資料の検討方法について 第 4 回 口頭発表 (1) 第 5 回 口頭発表 (2) 第 6 回 口頭発表 (3) 第 7 回 口頭発表 (4) 第 8 回 口頭発表 (5) 第 9 回 前半のまとめ 第 10 回 口頭発表 (6) 第 11 回 口頭発表 (7) 第 12 回 口頭発表 (8) 第 13 回 口頭発表 (9) 第 14 回 口頭発表 (10) 第 15 回 全体のまとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	論文収集、資料作成、発表準備など。							
成績評価の方法	口頭発表等 (70%)、討議での発言・参加 (30%)							
実務経験について	なし							

授業科目	日本文学演習Ⅴ		担当者	竹本 寛秋
	[履修年次] 2年		授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期] 前期	[単位] 1単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本近現代における文学作品を対象として、論文作成の方法を身につける</p> <p>【概要】 明治以降の日本近代文学作品について、論文として構成できる能力を身につける。対象とする作品を自主的に選択し、論点を発見して論理的な考察を行い、他者と共有できるよう言語化して発表する。自分が研究する手法に自覚的になるために、さまざまな文学理論について解説を行う。</p> <p>【到達目標】 日本近代文学の作品について、選択したテキストから論点を発見し、論として発展させることができる。様々な文学理論を理解し、自己の発表に生かすことができる。発表をもとに、ディスカッションすることができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 斎藤理生他編『卒業論文マニュアル 日本近現代文学編』ひつじ書房</p> <p>(2) 授業中に適宜紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス：授業の進め方、研究論文を作成する意義</p> <p>第 2回 対象となる作品の決定、文学理論について</p> <p>第 3回 発表資料の作成、発表の方法、ディスカッションの方法について</p> <p>第 4回 口頭発表 (1)</p> <p>第 5回 口頭発表 (2)</p> <p>第 6回 口頭発表 (3)</p> <p>第 7回 口頭発表 (4)</p> <p>第 8回 口頭発表 (5)</p> <p>第 9回 前半のまとめ</p> <p>第 10回 口頭発表 (6)</p> <p>第 11回 口頭発表 (7)</p> <p>第 12回 口頭発表 (8)</p> <p>第 13回 口頭発表 (9)</p> <p>第 14回 論文作成の方法について</p> <p>第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	論文収集、資料作成、発表準備など。			
成績評価の方法	口頭発表、ディスカッションでの発言 (40%)、レポート (60%)			
実務経験について	なし			

授業科目	中国文学史Ⅰ		担当者	土肥 克己
	[履修年次] 2年		授業外対応	メールで事前連絡すること
	[学期] 前期	[単位] 2単位	[必修/選択] 必修	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国文学史</p> <p>【概要】中国文学を時代順に説明します。当時の文学者の置かれた状況を再現し、そのなかから文学作品が生まれてくる必然性を解説します。</p> <p>【到達目標】中国文学の存在意義、社会とのかかわりを理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布します。</p> <p>(2) 前野直彬編『中国文学史』東京大学出版会</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 授業の進め方について</p> <p>第 2回 詩経 (1)</p> <p>第 3回 詩経 (2)</p> <p>第 4回 詩経 (3)</p> <p>第 5回 楚辞 (1)</p> <p>第 6回 楚辞 (2)</p> <p>第 7回 楚辞 (3)</p> <p>第 8回 諸子 (1)</p> <p>第 9回 諸子 (2)</p> <p>第 10回 諸子 (3)</p> <p>第 11回 辞賦 (1)</p> <p>第 12回 辞賦 (2)</p> <p>第 13回 辞賦 (3)</p> <p>第 14回 辞賦 (4)</p> <p>第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	定期試験 100%			
実務経験について	なし			

授業科目	中国文学史Ⅱ	担当者	土肥 克己
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位	授業外対応	メールで事前連絡すること
		[必修/選択] 必修	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国文学史</p> <p>【概要】中国文学を時代順に説明します。当時の文学者の置かれた状況を再現し、そのなかから文学作品が生まれてくる必然性を解説します。</p> <p>【到達目標】中国文学の存在意義、社会とのかかわりを理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布します。</p> <p>(2) 前野直彬編『中国文学史』東京大学出版会</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 楽府 (1)</p> <p>第 2回 楽府 (2)</p> <p>第 3回 楽府 (3)</p> <p>第 4回 五言詩 (1)</p> <p>第 5回 五言詩 (2)</p> <p>第 6回 五言詩 (3)</p> <p>第 7回 志怪小説 (1)</p> <p>第 8回 志怪小説 (2)</p> <p>第 9回 志怪小説 (3)</p> <p>第 10回 近体詩 (1)</p> <p>第 11回 近体詩 (2)</p> <p>第 12回 近体詩 (3)</p> <p>第 13回 伝奇 (1)</p> <p>第 14回 伝奇 (2)</p> <p>第 15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	定期試験 100%		
実務経験について	なし		

授業科目	中国文学講読Ⅰ	担当者	土肥 克己
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位	授業外対応	メールで事前連絡すること
		[必修/選択] 選択(注)	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】漢文の文法</p> <p>【概要】短い漢文を使って、漢文の基本的な構文を学習します。高校までは漢文を返り点や送り仮名に従って受動的に読んできました。この授業では初歩的な漢文(白文)を能動的に読む力を養うために、構文と句法に重点を置いてくり返し訓練します。</p> <p>【到達目標】教職で求められるレベルを目安にして、漢文の基本的な構文・句法を習得する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布します。</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 授業の進め方について</p> <p>第 2回 基本文型 (1)</p> <p>第 3回 基本文型 (2)</p> <p>第 4回 基本文型 (3)</p> <p>第 5回 基本文型 (4)</p> <p>第 6回 基本文型 (5)</p> <p>第 7回 基本文型 (6)</p> <p>第 8回 副詞</p> <p>第 9回 基本文型の連続</p> <p>第 10回 フレーズ (1)</p> <p>第 11回 フレーズ (2)</p> <p>第 12回 フレーズ (3)</p> <p>第 13回 フレーズ (4)</p> <p>第 14回 フレーズ (5)</p> <p>第 15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	小テストを数回実施するので予習してきてください。		
成績評価の方法	小テスト 50%, 定期試験 50%		
実務経験について	なし		

(注) 教職必修

授業科目	中国文学講読Ⅱ		担当者	土肥 克己
	[履修年次] 1年	[学期] 後期 [単位] 1単位	授業外対応	メールで事前連絡すること
			[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】漢文学の基礎</p> <p>【概要】中国における文学と日本における漢文学の基礎的事項を概説します。これは漢文を読むとき、知っているのと役立つ知識です。このなかで漢文学作品をいくつか紹介し、構文・句法についての訓練も同時におこないます。</p> <p>【到達目標】教職で求められるレベルを目安にして、漢文に関連する基礎知識を習得する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布します。 (2)			
授業スケジュール	第 1回 授業の進め方について 第 2回 漢字 (1) 第 3回 漢字 (2) 第 4回 漢字 (3) 第 5回 漢字 (4) 第 6回 漢字 (5) 第 7回 漢文 (1) 第 8回 漢文 (2) 第 9回 漢文 (3) 第 10回 漢文学 (1) 第 11回 漢文学 (2) 第 12回 中国文学 (1) 第 13回 中国文学 (2) 第 14回 中国文学 (3) 第 15回 まとめ			
授業外学習(予習・復習)	小テストを数回実施するので予習してきてください。			
成績評価の方法	小テスト 50%, 定期試験 50%			
実務経験について	なし			

(注) 教職必修

授業科目	中国文学演習Ⅰ		担当者	土肥 克己
	[履修年次] 1年	[学期] 後期 [単位] 1単位	授業外対応	メールで事前連絡すること
			[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】白居易の作品を読む</p> <p>【概要】白居易の作品集のなかから、仮想判決文を読みます。これは社会のさまざまな事件に対し自分が裁判官になったつもりで判決を下したもので、そこから中国社会の特徴を読み取っていきます。</p> <p>【到達目標】中国前近代の社会現象を理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布します。 (2)			
授業スケジュール	第 1回 授業の進め方について 第 2回 講読 (1) 第 3回 講読 (2) 第 4回 講読 (3) 第 5回 講読 (4) 第 6回 講読 (5) 第 7回 講読 (6) 第 8回 講読 (7) 第 9回 講読 (8) 第 10回 講読 (9) 第 11回 講読 (10) 第 12回 講読 (11) 第 13回 講読 (12) 第 14回 講読 (13) 第 15回 まとめ			
授業外学習(予習・復習)	作品をプリントにして事前に配布するので予習をしてきてください。			
成績評価の方法	予習と発表 100%。定期試験は実施しません。			
実務経験について	なし			

授業科目	中国文学演習Ⅱ		担当者	土肥 克己	
	[履修年次]	2年	授業外対応	メールで事前連絡すること	
	[学期]	前期	[単位]	1単位	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国文学の研究のしかたと漢作文</p> <p>【概要】みなさんが中国文学を研究するにあたり、素材選択から調査、分析、構想、発表までの一連のステップを訓練します。さらに鹿児島県の漢文石碑を調査し、漢文と実際の社会がどのようにつながっているのかを学びます。</p> <p>【到達目標】中国文学研究のための技術を習得する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布します。 (2)				
授業スケジュール	第 1回 授業の進め方について 第 2回 文献調査の基礎 (1) 第 3回 文献調査の基礎 (2) 第 4回 論文の読み方 第 5回 石碑調査 (1) 第 6回 石碑調査 (2) 第 7回 石碑調査 (3) 第 8回 石碑調査 (4) 第 9回 石碑調査 (5) 第 10回 プレゼン練習 (1) 第 11回 プレゼン練習 (2) 第 12回 プレゼン練習 (3) 第 13回 プレゼン練習 (4) 第 14回 プレゼン練習 (5) 第 15回 まとめ				
授業外学習(予習・復習)	ステップごとに具体的な指示があるので十分に予習をしてきてください。				
成績評価の方法	予習と発表 100%。定期試験は実施しません。				
実務経験について	なし				

授業科目	中国文学演習Ⅲ		担当者	土肥 克己	
	[履修年次]	2年	授業外対応	メールで事前連絡すること	
	[学期]	後期	[単位]	1単位	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国文学の論文を整理して発表する</p> <p>【概要】発表担当者は中国文学の論文を複数読み、整理・考察したうえで発表してもらいます。質疑応答を通して中国文学全体への関心を高めつつ、発表の技術や論文の形式、構成、発想を身につけていきます。</p> <p>【到達目標】専門性を高め、学問的に探求する姿勢を習得する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)				
授業スケジュール	第 1回 授業の進め方について 第 2回 論文整理と発表 (1) 第 3回 論文整理と発表 (2) 第 4回 論文整理と発表 (3) 第 5回 論文整理と発表 (4) 第 6回 論文整理と発表 (5) 第 7回 論文整理と発表 (6) 第 8回 論文整理と発表 (7) 第 9回 論文整理と発表 (8) 第 10回 論文整理と発表 (9) 第 11回 論文整理と発表 (10) 第 12回 論文整理と発表 (11) 第 13回 論文整理と発表 (12) 第 14回 論文整理と発表 (13) 第 15回 まとめ				
授業外学習(予習・復習)	関係論文を調査し、発表に備えてください。				
成績評価の方法	予習と質疑応答 100%。定期試験は実施しません。				
実務経験について	なし				

授業科目	卒業研究Ⅰ・Ⅱ		担当者	専攻教員全員				
	〔履修年次〕	2年	授業外対応					
	〔学期〕	前期・後期	〔単位〕	各1単位	〔必修/選択〕	必修	〔授業形態〕	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】卒業論文の作成</p> <p>【概要】卒業論文は2年間の学習の集大成となる授業です。日本語日本文学専攻の学生は、日本語学演習・日本文学演習・中国文学演習のいずれかを選択したあと、それぞれの分野で自主的に課題を設けて研究し、成果を卒業論文として提出します。1年次にどの分野で卒業論文を書くかをまず選択し、2年次後期に卒業論文作成に向けた準備を整えて中間報告にまとめ、冬期には、卒業論文を完成させたうえで専攻全体の卒業研究発表会に備えます。</p> <p>教員は演習と連動させながら卒業研究課題の絞り込みを助け、みなさんの研究の進捗状況に応じて適宜指導します</p> <p>【到達目標】授業中に紹介します</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 授業中に紹介します。 (2)							
授業スケジュール	第1回	I	オリエンテーション：卒業論文の進め方	II	論文作成：その1			
	第2回		論文作成：その1		論文作成：その2			
	第3回		論文作成：その2		論文作成：その3			
	第4回		論文作成：その3		論文作成：その4			
	第5回		論文作成：その4		論文作成：その5			
	第6回		論文作成：その5		論文作成：その6			
	第7回		論文作成：その6		論文作成：その7			
	第8回		論文作成：その7		論文作成：その8			
	第9回		論文作成：その8		論文作成：その9			
	第10回		論文作成：その9		論文作成：その10			
	第11回		論文作成：その10		論文作成：その11			
	第12回		論文作成：その11		論文作成：その12			
	第13回		論文作成：その12		論文作成：その13			
	第14回		論文作成：その13		論文作成：その14			
	第15回		論文作成：まとめ		論文作成：まとめ			
授業外学習(予習・復習)								
成績評価の方法	I：中間報告100% II：卒業論文75%、口頭発表25%							
実務経験について								

授業科目	比較文化		担当者	小林 朋子				
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	適宜対応(要予約)				
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】異文化理解・異文化コミュニケーション・異文化交流とは何か。</p> <p>【概要】今日のグローバル化社会では、毎日の生活で異なる文化を持つ人々とのコミュニケーションが増加している。また、「異文化」とは国境を越える出会いを背景とした文化であるというステレオタイプを取り払えば、異質な他者との出会いも私たちの日常にあふれている。本講義では、そうした他者とのような関係性＝コミュニケーションを構築していくべきなのか、様々な観点から学んでいく。講義終盤では外国人との交流の時間を設ける。受講者はこの「異文化交流会」に向けて、主体的に考えながら講義を受ける必要がある。</p> <p>【到達目標】広い視野から異文化を正しく理解した上で、他言語を話す人々の価値観を知り、適切にコミュニケーションを行うことができる。・異文化交流の意義について体験的に理解する。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 伊佐雅子監修『多文化社会と異文化コミュニケーション』（三修社刊、2007年） (2) 池田理知子編著『よくわかる異文化コミュニケーション』（ミネルヴァ書房、2010年）他。（授業で随時紹介します）							
授業スケジュール	第1回		異文化コミュニケーションを学ぶことの意義：文化・異文化とは何か					
	第2回		グローバル社会と異文化コミュニケーション（1）：グローバリゼーションの意味					
	第3回		グローバル社会と異文化コミュニケーション（2）：異文化交流の歴史と異文化への眼差し					
	第4回		空間、時間、異文化コミュニケーション：さまざまな意味をもつ空間と時間					
	第5回		「地球都市の出現とコミュニケーション」：都市化する世界					
	第6回		女性と異文化適応：異文化適応におけるジェンダー					
	第7回		異文化コミュニケーションと誤解の接点：誤解という身近なできごと					
	第8回		異文化コミュニケーションにおける言語選択：「英語の普及」をどう捉えるか					
	第9回		異文化コミュニケーションとしての通訳者（1）：通訳の種類、通訳の歴史					
	第10回		異文化コミュニケーションとしての通訳者（2）：通訳は言葉の置き換え作業？					
	第11回		異文化交流会準備（1）：異文化接触とは―「よそ者」と異文化適応					
	第12回		異文化交流会準備（2）：グローバル化とアイデンティティー自分のことば、他者のことば					
	第13回		異文化交流会準備（3）：異文化コミュニケーションとは					
	第14回		異文化交流会：異文化コミュニケーションの実践					
	第15回		異文化交流会まとめ：新しい「異文化コミュニケーション」に向けて					
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。							
成績評価の方法	授業への参加態度（40%）、小レポート（異文化交流会前の準備レポートを含む）（20%）、最終レポート（40%）							
実務経験について	なし							

授業科目	英文学史		担当者	轟 義昭	
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応	
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位	
			〔必修/選択〕	選択	
				〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】18～20世紀の「小説」の流れを概観する。</p> <p>【概要】授業では学生間のディスカッションによって発信する能力と問題解決能力を養います。まず、グループ内で情報交換しながら世紀ごとに取り上げる作家と作品について共有します。次に、担当者が課した問題に対してグループ内でディスカッションしてもらい、その後、検討内容を発表してもらいます。他の学生の見解や思考を共有しながら、担当者の解説（一つの考え方）を聞いて問題点の理解に努めます。</p> <p>【到達目標】18世紀及び19世紀初頭の小説の特徴、19世紀の小説（ピクトリア朝小説）の特徴、20世紀前半の小説の特徴を理解する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 川崎寿彦著 『イギリス文学史』 成美堂</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション（講義方式の説明）、「小説の誕生、そして成長」に関わる作者と作品の共有</p> <p>第2回 18世紀の小説（1）：小説の誕生とその周辺に関する諸問題（J.バニヤン、D.デフォー、J.スウィフト、S.リチャードソン）</p> <p>第3回 18世紀の小説（2）：小説の確立におけるH.フィールディング、L.スターン、T.G.スモレットの役割</p> <p>第4回 18世紀の小説（3）：18世紀後半のゴシック小説（H.ウォルポール、A.ラドクリフ夫人）</p> <p>第5回 19世紀初頭の小説：小説の成熟に貢献したJ.オースティン</p> <p>第6回 「ヴィクトリア朝の小説」に関わる作者と作品の共有</p> <p>第7回 19世紀ヴィクトリア朝の小説（1）：C.ディケンズの役割</p> <p>第8回 19世紀ヴィクトリア朝の小説（2）：ブロンテ姉妹（シャーロット、エミリー、アン）の小説</p> <p>第9回 19世紀ヴィクトリア朝の小説（3）：W.M.サッカレーの小説『虚栄の市』、E.ブロンテの小説『嵐が丘』</p> <p>第10回 19世紀後半（ヴィクトリア朝後期）の小説：ダーウィニズムとT.ハーディの小説</p> <p>第11回 「第二次世界大戦までの小説」に関わる作者と作品の共有、20世紀小説の特徴（S.フロイトの影響）</p> <p>第12回 20世紀の小説（1）：H.G.ウェルズの小説</p> <p>第13回 20世紀の小説（2）：V.ウルフの小説</p> <p>第14回 20世紀の小説（3）：D.H.ロレンスの小説</p> <p>第15回 20世紀の小説（4）：H.ジェイムズの小説、E.M.フォスターの小説、まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	適時指示				
成績評価の方法	授業への取り組み+学習単元ごとのまとめ（100%）				
実務経験について	なし				

授業科目	米文学史		担当者	小林 朋子	
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	適宜対応（要予約）	
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位	
			〔必修/選択〕	選択	
				〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】アメリカ文学史から読み解くアメリカ社会・文化の源流</p> <p>【概要】本講義は、ネイティブ・アメリカンの口承文学から、ポスト・モダニズムの文学までのアメリカ文学史上の名作を、作家の経歴や時代背景に照らして学び、その作品の抜粋を英語で精読することで、アメリカ社会・文化の源流について理解を深めることを目的としている。文学作品から時代思潮を読み取る方法を知ること、今氾濫しているアメリカの情報が、どんな風に発祥し、史的にどんな紆余曲折を経て、私たちの現在に届けられているのか推し量る力を養うことができる。そのような「文化理解力」をこの米文学史の講義で涵養してほしい。授業では</p> <p>【到達目標】アメリカ社会・文化の源流について理解を深める。アメリカ文学の作品を原書で読むことで英語読解力を向上させる。他言語を話す人々の価値観を知る。情報を的確に調査する能力、またそれを発信する自己表現能力を向上させる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 井上謙治著 『An Outline of American Literature アメリカ文学概観』（南雲堂、2004年）</p> <p>(2) 授業で随時紹介します。</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 インTRODクシヨン—ネイティブ・アメリカンの詩</p> <p>第2回 信仰とアメリカ—ピューリタン文学と理性の文学（1）</p> <p>第3回 信仰とアメリカ—ピューリタン文学と理性の文学（2）</p> <p>第4回 「驚異」の世界—ロマン主義の勃興</p> <p>第5回 アメリカン・ルネッサンス—ロマン主義の隆盛（1）</p> <p>第6回 アメリカン・ルネッサンス—ロマン主義の隆盛（2）</p> <p>第7回 「金めつき時代」—リアリズムの勃興</p> <p>第8回 危機と革新—リアリズムの展開</p> <p>第9回 繁栄と解放の文学—ロスト・ジェネレーション</p> <p>第10回 世界へ向けて—モダニズムの文学</p> <p>第11回 戦後文学の出発—第2次世界大戦と冷戦</p> <p>第12回 自我をつくろう—人種系文学（1）</p> <p>第13回 自我をつくろう—人種系文学（2）</p> <p>第14回 自己の探求—ポスト・モダニズムの文学</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。				
成績評価の方法	授業への参加態度（40%）、小レポート（20%）、最終レポート（40%）				
実務経験について	なし				

授業科目	書道Ⅰ		担当者	川畑 和明
	[履修年次] 1年	[学期] 前期 [単位] 1単位	授業外対応	授業終了後に対応
			[必修/選択] 選択(注)	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中学校における書写教育の把握と楷書・行書の学習</p> <p>【概要】書道は、文字を素材とする芸術である。本講座では、まず書体の変遷について概要を学ぶとともに、中学校の書写教育の概観を捉える。そして、中学校書写の楷書・行書の教材を練習し、その執筆法を習得することにより、書写学習の基礎を学習する。</p> <p>【到達目標】中学校における書写教育の把握と楷書・行書の書き方を習得する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 青山杉雨「改訂 書道の古典Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」二玄社刊 (2)			
授業スケジュール	第 1回 書について(書体の特徴とその変遷), 中学校における書写教育 第 2回 楷書の特徴とその書法(基本点画1) 第 3回 楷書の特徴とその書法(基本点画2) 第 4回 楷書作品制作 第 5回 楷書に調和する仮名 第 6回 楷書と仮名の調和 第 7回 楷書(硬筆) 第 8回 行書の特徴とその書法 第 9回 行書の特徴とその書法 第 10回 行書作品制作 第 11回 行書に調和する仮名 第 12回 行書と仮名の調和 第 13回 行書(硬筆) 第 14回 作品制作 第 15回 作品制作, 学習のまとめ			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	学習への取り組みおよび作品			
実務経験について	鹿児島県立高等学校にて教諭として勤務			

(注) 教職必修

授業科目	書道Ⅱ		担当者	川畑 和明
	[履修年次] 1年	[学期] 後期 [単位] 1単位	授業外対応	授業終了後に対応
			[必修/選択] 選択(注)	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中学校における書写教育の把握と楷書・行書・仮名の古典学習</p> <p>【概要】中学校書写の楷書・行書の教材と関連しながら、楷書・行書・仮名の古典学習を通して、それぞれの筆法を学習する。</p> <p>【到達目標】中学校における書写教育の楷書・行書の書き方を、古典学習を通し深める。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 青山杉雨「改訂 書道の古典Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」二玄社刊 (2)			
授業スケジュール	第 1回 中学校における書写教育 第 2回 楷書の古典(基本点画) 第 3回 楷書の古典(九成宮醜泉銘・孔子廟堂碑) 第 4回 楷書の古典(雁塔聖教序・顔氏家廟碑) 第 5回 楷書の古典(造像記) 第 6回 行書の古典(基本点画) 第 7回 行書の古典(蘭亭序) 第 8回 行書の古典(争坐位文稿他) 第 9回 行書の古典(蜀素帖他) 第 10回 仮名の書(いろは单体) 第 11回 仮名の書(連綿) 第 12回 仮名の書(高野切) 第 13回 仮名の書(三色紙) 第 14回 作品制作 第 15回 作品制作, 学習のまとめ			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	学習への取り組みおよび作品			
実務経験について	鹿児島県立高等学校にて教諭として勤務			

(注) 教職必修



授業科目	書道Ⅲ		担当者	川畑 和明
	[履修年次]	2年	授業外対応	授業終了後に対応
	[学期]	前期	[単位]	1単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】草書・隸書・篆書の古典学習</p> <p>【概要】漢字の書には、楷書・行書・草書・隸書・篆書の5つの書体がある。書道Ⅰ・Ⅱで日常生活において多用される楷書と行書を学習した。書道Ⅲでは、草書・隸書・篆書の古典学習を通して、書の幅広い技法を学ぶ。</p> <p>【到達目標】書道Ⅰ・Ⅱの楷書・行書学習の発展として、草書・隸書・篆書の古典学習を通して、それぞれの筆法を習得する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 青山杉雨「改訂 書道の古典Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」二玄社刊 (2)			
授業スケジュール	第1回 草書の特徴とその書法 第2回 草書の古典(書譜) 第3回 草書の古典(十七帖) 第4回 草書の古典(王鐸・傅山等) 第5回 作品制作 第6回 篆書の特徴とその書法 第7回 篆書の古典(泰山刻石) 第8回 篆書の古典(甲骨文・金文) 第9回 篆書の古典(帛書・木簡) 第10回 隸書の特徴とその書法 第11回 隸書の古典(曹全碑・礼器碑) 第12回 隸書の古典(古隸) 第13回 隸書の古典(木簡) 第14回 作品制作 第15回 作品制作, 学習のまとめ			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	学習への取り組みおよび作品			
実務経験について	鹿児島県立高等学校にて教諭として勤務			

授業科目	書道Ⅳ		担当者	川畑 和明
	[履修年次]	2年	授業外対応	授業終了後に対応
	[学期]	後期	[単位]	1単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】書作品制作</p> <p>【概要】書道学習の集大成として、書作品制作にチャレンジする。漢字作品、仮名作品、漢字仮名交じり作品の制作を通して書の楽しさと魅力を味わうことを目的とする。また、自分の名を刻した印を制作し、作品に押印する。</p> <p>【到達目標】書作品の製作を通して、書への興味・関心を高め、その技法を習得する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 青山杉雨「改訂 書道の古典Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」二玄社刊 (2)			
授業スケジュール	第1回 作品制作の計画 第2回 篆刻(自用印の制作) 第3回 篆刻(自用印の制作) 第4回 篆刻(自用印の制作) 第5回 漢字作品制作 第6回 漢字作品制作 第7回 漢字作品制作 第8回 漢字作品制作 第9回 仮名作品制作 第10回 仮名作品制作 第11回 仮名作品制作 第12回 仮名作品制作 第13回 漢字仮名交じり作品制作 第14回 漢字仮名交じり作品制作 第15回 漢字仮名交じり作品制作, 学習のまとめ			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	学習への取り組みおよび作品			
実務経験について	鹿児島県立高等学校にて教諭として勤務			